

1. 第3回有識者懇話会開催報告

テーマ：「(仮称) 浦和駅周辺まちづくりビジョンとりまとめ(素案)について」

日時：令和4年7月22日(金) 14:30~17:00

場所：埼玉会館 小ホール

傍聴人数：約120名

委員：会長 隈研吾氏

安藤梢氏、市川淳平氏、坂井貴文氏、鳥羽三男氏、廣瀬通孝氏、三木康史氏、向井亜紀氏、安河内眞美氏



2. (仮称) 浦和駅周辺まちづくりビジョンとりまとめ(素案)

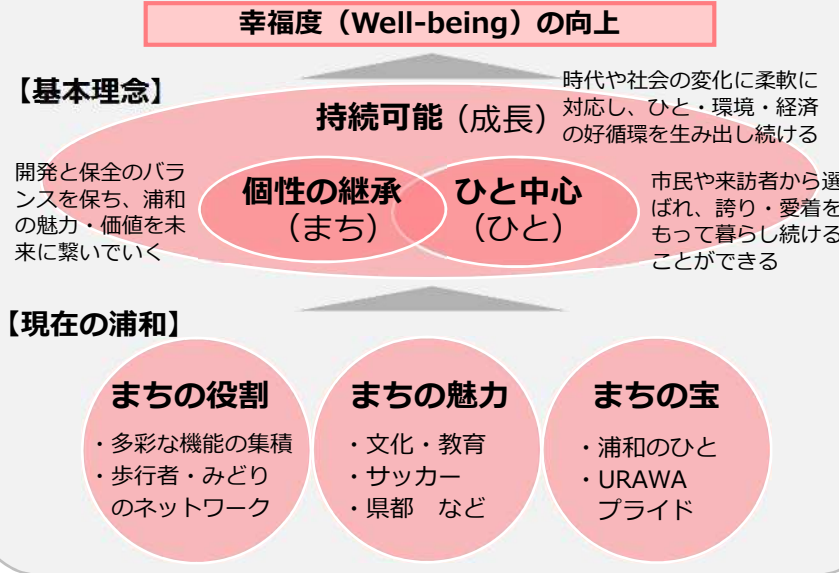
(1) 浦和のまちの将来像

① 基本理念

浦和のまちの将来像に向け、まちづくりの根底として大切にしていきたい不変的な考え方として、『個性の継承(まち)』、『ひと中心(ひと)』、『持続可能性(成長)』の3つを基本理念に設定しました。

今後、この3つの理念に基づき、まちの将来像を実現することで、浦和のひとの『幸福度(Well-being)の向上』を目指していきます。

【将来の浦和(2050年)】 2050年の浦和のひとの『幸福度(Well-being)の向上』を目指します



② 将来像

浦和のまちの将来像として、総合振興計画の浦和駅周辺地区の目指す方向性から2050年のまちの将来像を設定しました。

また、まちの将来像の実現に向けて、基本理念に基づき、“ひと”の“成長”の過程に合わせたまちの観点から、まちの将来像のイメージを3つに設定しました。

洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、
風格で魅了する都心・浦和

世界に冠たる文教・スポーツのまち

文化・教育・スポーツは、浦和のまち・ひとを象徴する魅力・個性として、新技術を取り入れながらグローバルな視点で磨き上げていく (文化・教育、スポーツ(サッカー等))

県都として風格ある暮らしのまち

市民や来訪者から選ばれ、誇り・愛着をもって暮らし続けるために、浦和のまち・ひとの個性を生かし、DXを活用し磨いていく (県都、居住・交通環境、商業・業務環境(経済))

誰もが安全安心、快適に活動できるまち

都心のまちとして、スマートシティを目指し、新技術を活用しながら、都市機能を引き続き維持・向上していく (緑・景観、安全・安心)

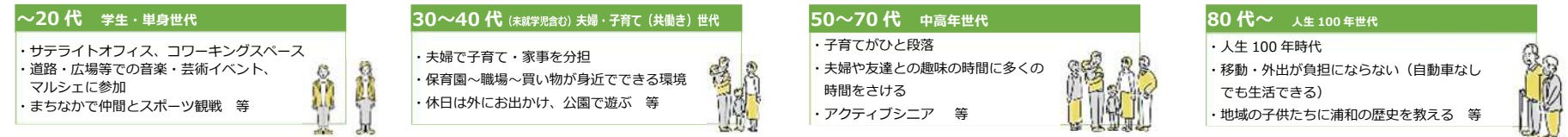
③ コンセプト

令和32(2050)年のまちの将来像について、浦和のまちの特長である「文化・教育」「スポーツ」「県都」「居住・交通環境」「商業・業務環境」「緑・景観」「安全・安心」に加え、まち全体をアップデートする「新技術活用(Society5.0・DX等)」、「環境・エネルギー」も含めた9つの分野毎に目指すまちの姿(コンセプト)を設定しました。



④ 将来の生活シーン

まちの将来像のコンセプトから、浦和のひとが将来どのような生活を送っているか「将来の生活シーン」について整理しました。



(2) まちづくりの展開

① まちづくり方針

目指すまちの将来像を実現するため、まちとひとをつなげる都市デザインの考え方から、まちづくりの方針を以下の2つに設定し、この方針を踏まえ、まちづくりの展開を図ります。

【方針1】浦和のまちの魅力が成長するリ・デザイン

■世界に誇れる魅力の創出、まちのイメージ(風格)につながる浦和の顔の形成や、ライフスタイルに応じた生活圏と交通環境創造により、更なる住みやすく災害に強いまちに向け、人の活動を支えるまちの拠点とネットワークの「リ・デザイン」に取り組み、全国に誇れる先進的なスマートシティ「浦和モデル」を目指し進化していきます。

【方針2】浦和のひとが成長し続ける サステナブル・サイクル

■人生100年時代に、3世代が暮らし続けられる生活環境の構築やライフステージにあわせた地域内住み替えで住み続けられる居住環境を目指すなど、デジタルツインを活用し、サステナブル・サイクルにより進化させていきます。

主な意見

- ・今回のビジョンでは、都心からの良い距離感、文化と伝統の蓄積にさらに磨きをかけ、未来に繋げていくという決意が感じられた。
- ・ヒューマンスケールのまちで良さを創るにはきめ細かな計画が必要で、そこに人間が絡んでいくことが大切。
- ・サイバー空間とリアルな浦和とのうまい繋がり方を考えることが価値になる。
- ・浦和の文化について、浦和画家のことは過去の事実として、拘り過ぎる必要はない。
- ・多様なライフスタイルを実現すること、浦和の文化教育スポーツを体感し楽しめるというコンセプトは共感できる。
- ・デジタル環境を整えるとともに、人が集まって学べる環境づくりも必要。
- ・災害時には浦和駅周辺の施設との連携が大切。
- ・将来像について浦和は既に持っている、いかにアップデートしていくかが重要。
- ・スポーツをする場所、見る場所が一体となった施設があると、自然に人が集まりコミュニティが生まれ、まちの一体感へとつながっていく。
- ・成熟した浦和の方々が満足する結果を生み出すのは非常にハードルが高いが、日本中のまち、世界中のまちから浦和は新しい時代のリーダーだというふうに納得してもらえるビジョンを作りたい。

② まちづくりの展開

まちづくりの各展開は、浦和の地域資源を生かしながら、時代の変化へ対応できるよう、官民連携で検討、推進していきます。
また、将来にわたって持続的な成長を維持していくためには、限りある経営資源を選択と集中の視点で重点配分していく必要があることから、“フォアキャスト”と“バックキャスト”の両輪によるハイブリット
の考えから、まちづくりの段階に応じた「選択」と「集中」のまちづくりに取り組みます。

【展開1】 浦和の文化・教育・スポーツを日常で体感し、楽しめる場の創出

目的	グローバルに活躍する人材を育み、人生 100 年時代に生涯楽しみ続けられる環境や、市民や来街者がまちなかで体感できる仕組みや仕掛けを構築し、地域の活性化や市民生活の充実を目指します。
取組	①歴史文化保全活用 ◆グローバルに活躍できる力を育成する新しい時代の学びの実現 ◆歴史文化資源の保全・継承・活用 等 ②芸術文化保全活用 ◆地域資源や施設等を活用し、まち全体で学べる環境の創出 ◆文化・芸術・教育・研究等機能の導入検討 等 ③スポーツ振興 ◆多彩なスポーツをする・みる・まなぶ・ささえる環境の整備 等 ④その他 ◆誰もが文化や教育への関りを深める、学び続けることができる仕組みづくり ◆プロチームを核としたサッカーのまちのさらなる一体感の醸成 ◆プレイヤーやコーチが生涯学び続けられる環境づくり ◆女子プレイヤーの活躍できる環境づくり 等

【展開2】 県都・都心にふさわしい、風格のあるまちの再構築

目的	県都にふさわしい風格のある広域拠点として、環境・エネルギー性能の効率化や防災安全性の確保、緑・景観との調和や新技術の積極活用等、複合的な都市機能を備えた質の高い環境整備を図ります。
取組	①駅前再構築 ◆新たなまちづくりと既存の地域環境が調和した風格あるまちなみデザインの形成 ◆環境・エネルギー性能の効率化に配慮した公共施設の整備や駅前商業施設の建替えの促進 ◆災害時における駅前滞在者の安全性確保（帰宅困難者支援体制の構築） ◆土地利用の高度利用と合わせた機能の複合化、ミクスْتُースなまちづくり ◆落ち着いたあるみどり豊かな暮らしの場の景観づくり 等 ②風格ある県都創造 ◆大規模な公共施設等の建替え・更新に合わせた新たな都市機能の導入 ◆環境・エネルギー性能の効率化や広域の防災機能を備えた公共施設の整備・建替え ◆首都機能のバックアップが担える防災機能の拡充 ◆公共施設等の整備・建替えによる地域の顔づくり 等 ③風格あるまちなみ形成 ◆にぎわいと品格のあるまち並みの形成 等 ④その他 ◆災害に強い都市環境の整備 ◆地域コミュニティにおける防災力の向上 ◆再生可能エネルギー等の導入、省エネルギー化の推進、脱炭素社会に向けた地球温暖化対策の推進 ◆浦和の人や企業がインクルーシブなモノ・コト・情報等で協力して地域に貢献する体制構築、浦和駅周辺の官民連携ネットワークの構築 等

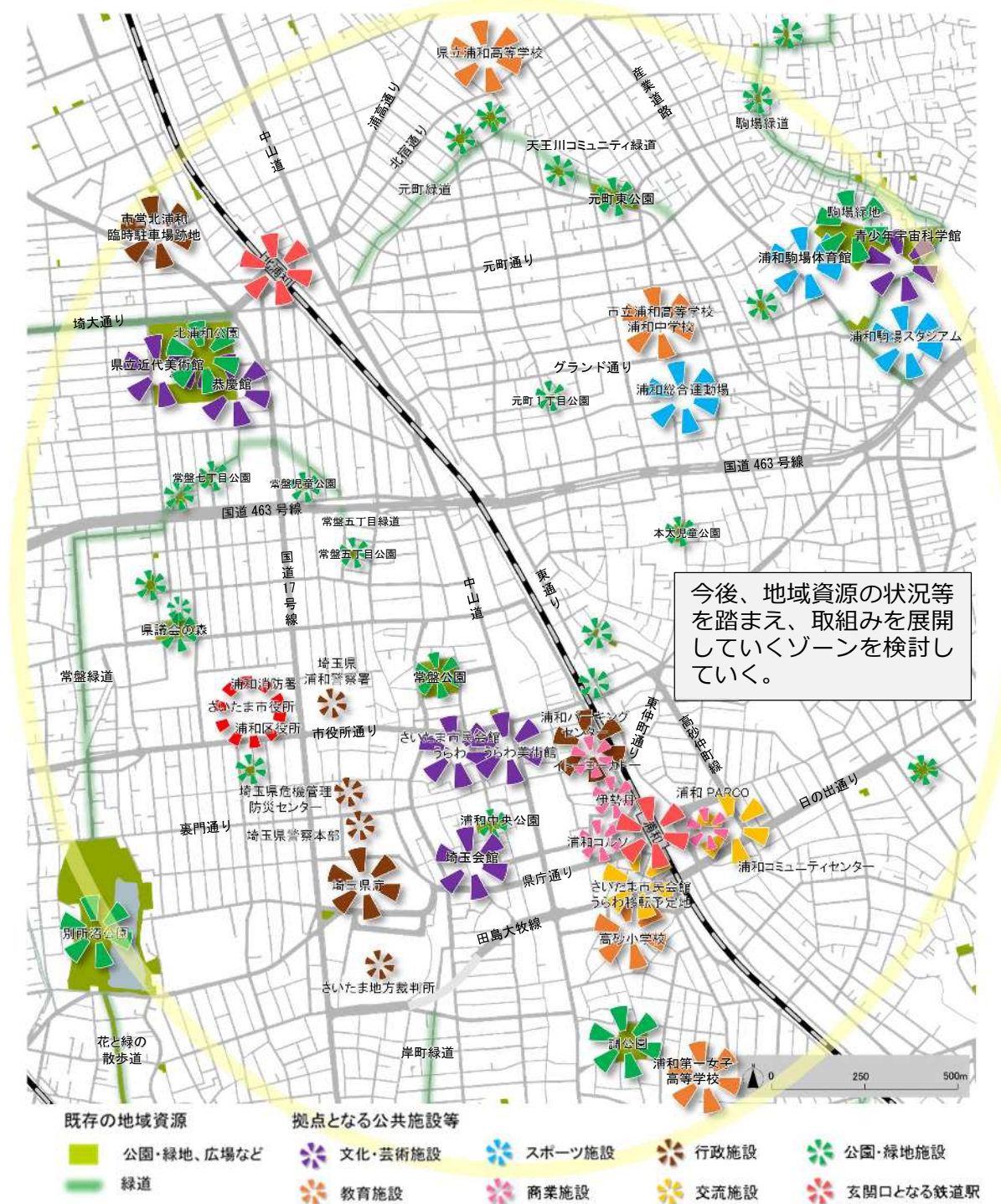
【展開3】 浦和らしい、多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成

目的	多様な年齢・世帯の方々が、浦和のまちで多様なライフスタイルや経営スタイルを実現できるよう、官民による多様なサービスを利用しながら、生き生きと暮らし働ける活動・交流の場づくりやコミュニティ形成の機会づくりに取り組みます。
取組	①都心居住 ◆市民交流機能の導入検討 ◆高齢者が安全・安心に暮らすことができる福祉環境の充実（地域包括ケアシステム等） ◆宿場町としての面影を残す落ち着いたある住環境の形成 等 ②都心商業・商店街 ◆浦和の人の居心地の良いまちなかの創出 ◆浦和らしいまち並みの形成と保全 ◆商店街等の活性化・賑わいの創出 ③その他 ◆産学官民が連携した生活サービスの提供体制構築やコミュニティの環境整備 ◆地域コミュニティにおける防災力の向上 ◆誰もが移動しやすい交通環境の形成 ◆市民・事業者と協働した地域の特性を活かした景観づくり 等

【展開4】 誰もが快適に移動できるネットワークの強化

目的	点在する商業施設や文化・芸術、サッカー、緑、歴史等の地域資源のネットワーク化を図るとともに、目的や利用者に応じた最適な移動手段の確保を図り、誰もが快適に活動・交流できる移動環境の形成を図ります。
取組	①ウォークアブル空間創出 ◆ウォークアブルなまちなか環境の創出 ◆歩行者ネットワークの形成とバリアフリー化の推進 等 ②回遊ネットワークの形成 ◆地域の緑地資源を結ぶ緑のネットワークの形成/グリーンインフラの推進 等 ③その他 ◆多様な移動手段に応じた適切な走行環境の整備 ◆MaaS など新たなモビリティサービスの活用 ◆段階的な新交通の導入に向けた検討体制の構築 等

図 浦和駅周辺の地域資源



【その他】 まちの環境とサービスの維持・向上

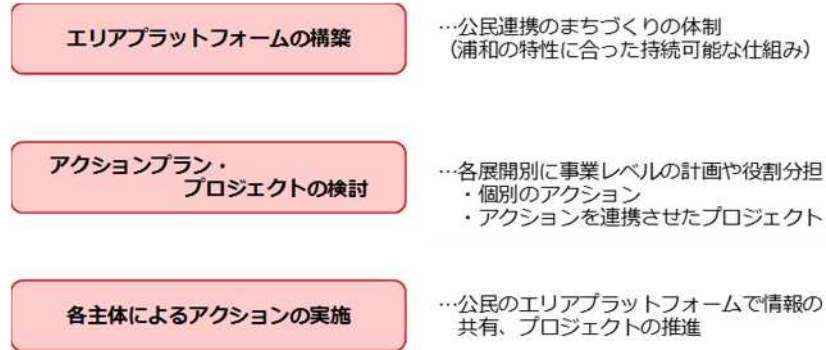


目的	浦和駅周辺のまちが備えている環境やサービスを維持しつつ、新技術の導入による効率性、環境・エネルギーへの配慮や価値観の変化によるサービスの変化への対応、まちの強靱化の促進など、まちの環境の最適化に向けた検討を進めます。
取組	<ul style="list-style-type: none"> ◆使い方、マネジメントに着目した各種施策の展開 ◆サイバー空間上での社会実験による検証に基づく各種基盤の整備・更新・維持（デジタルツイン） ◆デジタル基盤（3D都市モデル）を活用したシミュレーションによる最適化の検討 ◆上下水道施設の健全化の推進 ◆災害時でも安全に生活できる避難生活支援（施設・サービス）の検討 ◆都市基盤（道路・公園等）の強靱化の促進 等

(3) まちの将来像の実現に向けて

① 公民連携のまちづくりの推進

今後は、行政主導のまちづくりではなく、地域住民や企業、NPO法人、行政など多様な主体との連携・協働のもと、公民連携のまちづくりに取り組むことが求められます。
そのため、浦和駅周辺地区において、浦和のひとや企業等がまちの現状や課題を認識・共有し、同じ目標や方向性をもって共にまちづくりに取り組むために、「エリアプラットフォーム」の構築を目指します。



② 誰もがまちづくりに参画できる環境の形成

浦和のまちづくりの推進にあたっては、年齢・性別・国籍等に関わらず、誰もがまちづくりに参加できる場や仕組みづくり（コミュニティデザイン）を検討するとともに、浦和のまちの情報の公開・発表・周知に努め、誰もが気軽に浦和のまちを知り、学ぶことができる環境づくりに取り組んでいきます。



③ アクションプランの検討

今後、まちづくりの展開1～4毎に、具体的なアクション・プロジェクトや、公民の役割分担の考え方を示す「アクションプラン」の検討を進めていきます。
また、市事業の具体化に合わせて、個別のアクションを市総合振興計画実施計画へ位置づけて進捗管理していきます。

<展開毎のアクションプランの検討イメージ>

	【展開1】	【展開2】	【展開3】	【展開4】
	浦和の文化・教育・スポーツを日常で体感し、楽しめる場の創出	県都・都心にふさわしい、風格のあるまちの再構築	浦和らしい、多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成	誰もが快適に移動できるネットワークの強化
【STEP1】 検討体制	・教育機関 ・芸術家 ・スポーツ事業者 ・さいたま市 等	・商業・サービス事業者 ・埼玉県 ・さいたま市 等	・子育て事業者 ・福祉事業者 ・商業・サービス事業者 ・さいたま市 等	・埼玉県 ・さいたま市 ・交通事業者 等
【STEP2】 個別施策（案）	・グローバル人材の育成プロジェクト（高砂小学校）等	・公共施設跡地のまちづくり検討プロジェクト等	・浦和らしい都心居住の推進プロジェクト等	・まちなかウォーカー推進プロジェクト等
事業化キーワード（案）	・まちづくりDX ・3D都市モデル 等	・市街地整備2.0 ・駅まち再構築 ・グリーンインフラ ・再生可能エネルギー 等	・建築デザインガイドライン 等	・まちなかウォーカー推進 ・歩行者利便増進道路（ほこみち協定）等

浦和の活動家 意見交換会

日時：令和4年7月18日（月・祝）10:00～12:00
場所：浦和コミュニティセンター第7集会室
傍聴人数：約20名

基調講演「浦和の街に対する視点提供」

池本洋一氏（SUUMO 編集長）

トークセッション「浦和について感じていること、今後の浦和のまちについて」

池本洋一氏、菊地順子氏（NPO 法人 Arts&Health さいたま代表理事）、堀哲郎氏（らしく(株)代表取締役）、松原満作氏（(一社) バイクロア代表理事）、三ツ口拓也氏（うらわ Clip 代表理事）、宮本恭嗣氏（さいたま市 PPP コーディネーター）



主な意見

- ・裏門通りなど家賃が東京並みに上昇しており、若い人が事業をやりたくてもチャレンジできない。市内で働ける環境、チャレンジできる環境を今後どれだけ作り出しているか、生み出されたお金がいかにか地域に循環しているかが大事。
- ・活動を通して、子どもの居場所をもっとまちの中に作ることに、活動している自分たちの居場所づくりでもあり、それがここに住み続けたいという思いに繋がる。
- ・浦和のまちは困っていることがあまりなく、自分たちで自分たちのまちを作るという意識が薄い。
- ・図書館など人が集まる公共施設に併設するイベントスペースでその地域のお店を出店するなど、公共空間も含めた空間の余剰をうまく活用する必要がある。
- ・マンション開発の際に1階部分にテナントを入れる、もしくは敷地内に空地を作ってキッチンカーを入れるなどして賑わいの創出をするためには、デベロッパーの意識改革だけでなく、行政の政策も同時に必要。
- ・人が集まる場所で、地元のお店やアーティストなどが日替わりで登場するなど流動的なイベントを行ってあげれば、偶発的に浦和のまち、ひとを知る機会になる。
- ・浦和の教育ブランドは非常に強いが、ただ頭のいい子を育てるのではなく、これからは自分で課題を見つけて自分で発案して主体性をもつ子どもとして育てるという教育ブランドがまちづくりに結び付くと面白いと思う。子どもが主体性を持ち、親も主体性を持ち、それが浦和の教育とうまく結びつくと良い。

3. 今後のスケジュール

